



きぬた

NPO 法人埼玉県キャンプ協会、〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎 3551 浦和大学 中島研究室
<http://saitama-camping.jp/> E-mail saitama@camping.or.jp

きぬた 164 号

(1 ページ)

● OPINION

『もっとキャンプのことを勉強したかった』

(2 ページ)

● イベントレポート 防災キャンプ

● イベントレポート ブッシュクラフト入門

● イベントインフォメーション キャンピングインストラクター

養成講習会(5月)



会員から届いたキャンプの話題や体験談、ご意見などを紹介します。

OPINION

「もっとキャンプのことを勉強したかった」

今年も 3 月がやってきました。卒業シーズンですね。

大学で教員をしている私は、今年も、4 年間心を込めて関わってきた学生さん達の卒業を見送ります。先日、無事に卒業論文を提出し終わったゼミ生がふと、大学生生活を振り返って口にしたのが「もっとキャンプのことを勉強したかった」です。

私が勤める大学では、授業の一環として「森のようちえん」活動を行っています。前任者である金子和正先生(埼玉県キャンプ協会前会長)が創始された活動で、近隣地域に住む 3 歳～小学校 3 年生の約 25 名を対象に、キャンパスの裏山をフィールドに自然体験活動の機会を提供しています。春のタケノコ掘りから始まり、裏山散歩やネイチャーゲーム、水遊び、サツマイモ栽培、焚火(おせんべいを焼いたりバウムクーヘンを焼いたり)、ネイチャークラフト、そしてお泊りキャンプ…など、月に 1 回、年間を通じて様々な活動を展開しています。

このプログラムを企画し、準備・運営を担うのは、将来、保育士や幼稚園・小学校・特別支援学校の教諭などの道に進むことが多い、保育教育系の学生さん達です。その月の担当者となった学生さんが、事前に「こんな活動がしたい!」と案をもって相談に来てくれ、季節や子どもたちの様子などを考慮しながら内容や流れを決めていきます。

タイトルの台詞を口にした彼女は、1 年生の時から、私の授業(自然体験に関する科目)を積極的に履修し、上記の「森のようちえん」活動にもほぼ無欠席で参加し、外部団体が主催する宿泊型キャンプにも参加するなど指導経験も積んできました。卒業論文では、子どもと大人の自然観をテーマに取り上げ、人と自然の関係について議論を深めてきました。つまり、「キャンプ」に関する勉強をしっかりしてきた方の学生さんです。それでも「もっと勉強したかった」と言わせてしまったことに、私自身の力不足と申し訳なさを感じつつも、同時に、いくらでも勉強したいことが湧いてくるのが「キャンプ」なのだと思う自分もいました。「キャンプ」は、関連する分野の多さが魅力だと感じています。何を学んだら「キャンプを学んだ」と自信を持って言えるのか。私自身も分からないことだらけです。でも、だからこそ楽しいのだと思います。

「例えばどんなことをもっと勉強したかった?」と聞くと、植物などの自然環境のこと、火起こしやロープワークなどのハードスキルのこと、そして背景にある理論のことなど、様々なキーワードが出てきました。「理論は 1 年生の時の授業でそれなりに触れているはずなだけだな…」と頭の中でツツコミを入れつつも、このように、本人が「学びたい」と実感できたこれから本当の「学び」が始まるのだと、妙に腑に落ちる気分にもなりました。

卒業後、彼女は、自然体験を重視した園に就職することになっています。これからどのような勉強をして、子ども達とどのような「キャンプ」をするのか、楽しみに見守りたいと思います。

NPO 法人埼玉県キャンプ協会理事 佐藤冬果

イベントレポート

防災キャンプ

2026 年 1 月 17 日(土)～1 月 18 日(日)
神川げんきプラザ

参加してくれたのは小学 1 年生から 5 年生までの 23 名。14 名のスタッフとともに、2 日間を元気いっぱいにご過ごしました。

まずはアイスブレイクで体を動かし、緊張もほぐれたところで昼食タイム。そして、いよいよ防災キャンプのスタートです。

ロープワークでは、低学年は 2 種類、高学年は 4 種類の結び方に挑戦しました。覚えた結び方はすぐに実践へ。低学年は「落ち葉防寒着」づくりに取り組みました。大きな袋に頭と腕の穴を開け、腰ひもを結び、袋いっぱいに落ち葉を詰めていきます。「もっと入れて！」「あったかい！」と声をかけ合いながら、楽しそうな笑顔が広がっていました。高学年はブルーシートとひも、ペグだけを使った「シェルター作り」。風向きや地面の傾き、高さを考えながら、寒い夜をどう過ごすかを真剣に話し合い、工夫を凝らしていました。

火おこし体験では、マッチを使わずに、ビニール袋に水を入れて太陽光を集める方法や、スチールウールと電池を使う方法に挑戦。「本当に火がつくの？」と半信半疑だった子どもたちも、実際に火が起これると大きな歓声をあげていました。

夕食は防災食。洗いを減らすために皿にビニール袋をかける工夫も体験し、「なるほど！」と新しい発見があった様子でした。

2 日目の朝はカートドッグづくりからスタート。その後の水のろ過実験では、ペットボトルで作った装置を使い、汚れた水が少しずつきれいになっていく様子を目を輝かせていました。

2 日間を通して、子どもたちは体験しながら防災を学びました。楽しさの中にある「もしもの備え」。この経験が、ご家庭や友人へと広がっていくことを願っています。



イベントレポート

ブッシュクラフト入門

2025 年 12 月 7 日(日)

神川げんきプラザ

ブッシュクラフトは、自然の中で命をつなぎ、活動しながら、同時に自然を傷めないように配慮する知恵と技術のことです。「ブッシュクラフト入門」は、そうした知恵や技術を実践的に学ぶ講座です。今回は 11 人の参加者が集まりました。

今回のテーマは、「ミニマムインパクトな焚き火の方法」でした。

安全に、そして自然環境に配慮しながら直火で焚き火をするには、どんな工夫が必要なのでしょう？

その答えのひとつとして学んだのが、「マウンドファイアー」です。現地で調達した泥や砂で火床となるマウンド(丘)を作り、その上で落ち枝や落ち葉で火を焚きます。

マウンドの形や大きさは？どのような枝がよく燃える？点火の方法は？一つひとつの技術に先人たちの積み重ねてきた多くの知恵があります。参加者の皆さんは実際に手を動かしながら、その意味を体感していました。

そしてもちろん、焚き火の後始末もミニマムインパクトで。自然の中に“痕跡を残さない”という意識を含めて、学びの時間となりました。



イベント インフォメーション

キャンプインストラクター 養成講習会 (5 月)

キャンプの意義や安全管理、指導方法について、実際のキャンプ活動を通して学びます。試験に合格すると、「キャンプインストラクター」の資格を取得することができます。

理論講習 ①2026 年 5 月 7 日(木) 19:00～

②2026 年 5 月 13 日(水) 19:00～

Zoomにて実施

実技講習 2026 年 5 月 23 日(土)～24 日(日)

場 所 長瀬カヌースクール(秩父郡皆野町)

※詳細は、HPをご確認ください。



NPO 法人埼玉県キャンプ協会

<http://saitama-camping.jp/> E-mail saitama@camping.or.jp

〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎 3551 浦和大学 中島研究室

ホームページはこちら→

